

高山祭の歴史と これから

岐阜県立斐太高等学校
三島千波、三島奈津子



調査の理由

- ・ 高山祭の歴史が気になったから
- ・ 高山祭の現状を知りたいから
- ・ 自分が高山祭に出ているから

調査方法

1. 自分の知っていることについてまとめる
2. 仮説や疑問についてまとめる
3. 日枝神社、櫻山八幡宮にお話を聞きに行く
4. 分かったことについてまとめる



高山祭とは

- ・ 年に二回行われる高山のお祭り
春の高山祭、秋の高山祭
- ・ 春祭（山王祭）
豊作を祈る
- ・ 秋祭（八幡祭）
豊作に感謝する

高山祭の歴史

- ・ 祭りの起源は16世紀後半から17世紀
→約400年以上受け継がれてきた
- ・ 今のような祭屋台がある祭りは、
祭りが始まってから約30年後
- ・ 昔屋台は50年しか持たなかった。
→蔵が作られたことによりそれ以上持つようになった

高山祭の現状

- ・ 各屋台組で年々祭りの参加者が減ってきている。
- ・ 最近コロナの影響でまつりが開催できなかった→その間に祭りの担い手が高山から出ていった。
- ・ コロナの影響で祭りの練習がやりずらくなった。



仮説と疑問

- ・昔から現在の高山祭で、カットされたもの、または時代に合わせて変化したものがあるのではないか。
- ・祭の担い手を増やすために、何を取り組んでいるのか。

調査方法
春の高山祭が行わ
れる日枝神社、
秋の高山祭が行わ
れる櫻山八幡宮に
お話を聞きにいき
ました。



調査で分かったこと

- ・ 高山祭誕生のきっかけ
- ・ 屋台登場の話
- ・ お囃子の起源
- ・ お囃子の伝わり方
- ・ 高山祭の変化について



高山祭誕生のきっかけ

- ・ 1600年金森可重の時代、町の人が神輿を担ぎ笛や太鼓をならし、お城へと続く道を上った。
 - ・ これに対し喜んだ可重は毎年この祭りをするようにと命じた。
- 元々神社のお祭りは他にもあったが、高山祭の元とされているのがこのお話
- ・ この頃から屋台組は存在していた。

屋台の登場

- ・ 1708年頃八幡祭（秋の高山祭）に屋台として神楽台が初めて登場
- ・ 神楽台登場から40数年後次々と多くの屋台が登場

しかし、初めの屋台は質素なものだった

→屋台が整い、進化を始めたのは1840年頃
昔は蔵がなかった為、火災や破損のたびに修繕
その度に他の屋台組には負けまいと様々な装飾

お囃子の 起源の神話

天照大神が弟の言動に我慢ならず、
天照大神岩の中に隠れる



神々が天照大神を岩から出そうとして、
岩の前で音楽を奏でる

お囃子の伝わり方

天照大神の神話



高山祭



それぞれの屋台

はっきりとしたことは資料が残っておらず、わかっていない

歌って伝承された？

- ・ 明確な楽譜があるわけではない
- ・ 人から人へ伝わる中で、音程が変わったのではないか
- ・ どの屋台でも演奏される
- ・ 「高い山」という曲にも、屋台によって少しずつ違っていた

高山祭の変化について

「すべからず祭事をとくするは先例をつぎまし」

→祭を行うなら前回と同じように祭の形式ではなく
祭を行う人の心、原点を変えない



祭の形式は変わり続けても、
祭の原点は昔から変わってない
高山祭は町の人たちの思いがこもった伝統ある祭



高山祭の現状

【良い現状】

- ・ 観光客が増えている
- ・ 高山の観光資源に
- ・ コロナ後もたくさんの人

【悪い現状】

- ・ 担い手不足
→ コロナ後は特に
- ・ 屋台組の負担

担い手不足の改善方法

→屋台組（屋台を守る地域の組合。屋台一台一台に一組ある）
の人数を増やす

For example

屋台組に所属していない、別の地域の、伝統を守る志と
覚悟があると認められた人に手伝いに来てもらう

私たちが提案する対策

- ・ 高山祭を身近なものに感じてもらう
→ 楽器の体験
屋台を引いてもらう（事前に募集する。）
- ・ 高山祭を現状を観光客に知ってもらう
- ・ 学生が祭りのボランティア
→ 観光客に説明

まとめ

高山祭は約400年以上続いている伝統ある祭

時代に合わせて変わっていても、祭の原点は変わらない

高山祭はコロナ後もたくさんの観光客が訪れている

担い手不足により継続が困難に

屋台組の負担が増えている